

the Melastomataceae in the Malay archipelago especially in the Netherlands East Indies. Meded. Bot. Mus. & Herb. Rijks. Univ. 91: 1-391. Cogniaux, A. 1891. Melastomataceae in DC., Monogr. Phanerog. 7: 1-1256. Korthals, P. W. 1840-1844. Bijdrage tot de Kennis der Inische Melastomataceae. Temminck Verh. Nat. Gesch. Bot. 218-255. Miquel, F. A. W. 1855. Fl. Ind. Batav. 1: 498-580. Naudin, C. 1851. Melastomacearum quae in Musaeo Parisiensi continentur monographicae descriptionis et secundum affinitates distributionis tentamen. Ann. Sc. Nat. ser. 3, 15: 12-18. Nayar, M. P. 1976. The status of genus *Phaulanthus* Ridley (Melastomataceae). Journ. Bombay Nat. His. Soc. 72(3): 878-882. — 1978. Notes on Asian Melastomataceae (2). The genus *Hylocharis* Miq., and the new combinations. Journ. Jap. Bot. 53: 332-335.

\* \* \* \*

マレー半島・マレー諸島に分布するノボタン科の *Anerinacleistus* 属について、属の限界を明かにし、6新種、1新変種を記載し、1新組合せを発表し、その他の種についても検討を行った。

○秩父山中地溝帯から木生シダの化石産出 (西田治文・田中邦幸) Harufumi NISHIDA & Kuniyuki TANAKA: A new locality of *Cyathocaulis naktongensis* Ogura.

本州中部から紀伊半島、四国へと連なる四万十層群の下部白亜系からは和歌山県と徳島県で木生シダの幹の化石が産出している。前者は *Cyathocaulis naktongensis* Ogura, 後者も不完全ながら同種とされる (小倉 東大理紀要, 1927 及び, 植研 1950)。また千葉県銚子の下部白亜紀からも同種の報告がある (西田 植物学輯報, 1962)。これらの分布からみて山中地溝帯にも木生シダの産出が期待されていたが、1976年12月、田中邦幸が群馬県多野郡中里村瀬林付近の沢で下部白亜紀の頁岩 (瀬林層) に埋もれた径 24×15 cm の根茎を発見した。付近からさらに数個が転石でみつかった。これらの標本は比較的保存が良く、根茎表面の毛、中心柱の形態、各組織の特徴が観察され、*C. naktongensis* と同定された。また、根茎の連続切片から、この種が葉跡の背軸側から不定芽を出すことがあらたに明らかになった。*Cyathocaulis* には4種が知られ、うち *C. naktongensis* は最も広く分布し、韓国にも知られるが、今回の発見で同種の四万十層群に沿った分布が明白になった。ただ銚子産の同種は別種である疑いがあり、現在検討中である。 (千葉大学 理学部・都立千歳高校)